



これがトキのおうち?

ひな うまれたね!もっとトキのこと知りたいな!

5月1日、行谷小学校の恒例行事となっているトキ集会がトキの森公園で行われました。トキの生態について学んでいた1、2年生は、資料展示館内にあるトキの巣の模型に興味津々。

トキの姿になり、その気分になって(?)勉強を深めていました。

(P15「ぐるっと」もあわせてご覧ください。)

平成23年度寄附講座活動報告	8、9
平成23年度行政監査結果	10
環境アドバイザー派遣のお知らせ	11
8月17日~19日はアースセレブレーション	28

トキよ大空へ

祝 放鳥トキのひな誕生!!

ひな誕生までの歩み

4月22日、環境省は市内の放鳥トキから、ひなが誕生したことを発表しました。自然界でのふ化は36年ぶりのことで、その興奮と喜びは、全国に広がりました。

江戸時代には全国的に生息していたトキ。乱獲などで激減し、昭和27年に国の特別天然記念物となりました。平成15年、日本産最後のトキ「キン」が死亡し日本産は絶滅しましたが、11年に中国産ペアから国内初の人工ふ化によるひなが誕生し、飼育数は順調に増えました。人工繁殖したトキを自然界に戻す取り組みは20年9月に始まり、これまでに5回の放鳥が行われました。初放鳥以来、営巣・産卵までは確認されましたが、ふ化には至りませんでした。このたび、皆の期待に応えて、自然繁殖により「2世」が誕生したことは、トキの野生復帰に携わる多くの方々の努力が実を結んだものです。

ひなの愛称が決定しました

市報連載「トキ 野生復帰にむけて」(P.21)に、掲載しています。今後も、皆さんにトキ関連情報を発信していきますので、どうぞご覧ください。

喜びの声

長期にわたり、トキに関心を持ち、その取り組みに携わってきた市民の方から、このたびの自然界でのひな誕生について、メッセージを寄せていただきました。



全校でトキについての学習に取り組む

佐渡市立行谷小学校

(左から) 6年 本間 日那さん「36年ぶりのふ化という文字を見た時、すごくビックリしてとてもうれしかったです。これからは、もっと環境に気をつけたいです。」

6年 斎藤 瑞樹さん「これまで何回も野生ふ化は失敗していたけど、やっとまれてうれしかったです。トキ解説員は難しいけど、積極的に解説できるよう頑張ります。」

校長 川上 治男さん「ひな誕生の翌日、環境省の川瀬自然保護官を招いて話を聞く機会があり、トキ解説員時の参考になる話をたくさん聞くことができました。『佐渡の空に再びトキを』を合い言葉に、これからもトキの学習を通して、自然環境に興味を持ち、自分たちの住んでいる佐渡をもっともっと好きになってほしいと思います。」



**佐渡とき保護会
顧問 佐藤 春雄さん**

ひな誕生の日、庭を散歩していると、トキが「ター、ター」と鳴きながら上空を飛んで行きました。その2時間後、環境省から電話で知らされ、私はトキが最初に知らせてくれたのだと思いました。本当に不思議なことでした。

私は今年93歳ですが、トキとの関わりで一番印象に残っているのは、日本初となった野生トキ「ハル」を飼育したことです。高校教師だった私は、たぬき用の罠にかかったトキを保護し、学校で49日間飼育しました。すべてが手探りだったため、学校で寝泊まりしました。フンを集めてトキが何を食べるのか調べ、えさを取りに出かけたものです。この出会いがのちの人生に大きく影響しました。



**生椿の自然を守る会
会長 高野 毅さん**

まずは、「でかした、ようやった」です。自然界は我々が考えている以上に難しいのですが、その中で、トキが自分たちで努力し、訓練しながら積み重ねてきたのが今回の結果だと思っています。

私の生まれた生椿の田んぼには、27羽の群れがいました。トキは羽を広げると約140cm、小学3～4年生が両手を広げ羽ばたいているのと同じです。父は、その美しさをボタンの花が咲いたようだと言っていました。私は、父の意思を継ぎ、再びトキの群れが田んぼで羽ばたく光景を、後世に残してあげたいと思うのです。トキへの恩返しは、トキだけでなく、他の生きものや佐渡の人たちが潤うことに必ず繋がると信じています。



**NPO法人 トキどき応援団
理事長 計良 武彦さん**

出張中に電話で誕生を知らされ、それは驚きました。あとは、無事に巣立って、佐渡の自然のなかに溶け込んでいってほしいと思います。

トキどき応援団は、飼育下でベビーラッシュが始まった平成14年に発足し、トキの野生放鳥に備えて、旧トキ保護センターがあった清水平を活動の拠点に、ピオトープづくりとその維持管理につとめてきました。10年目の節目に今度は野生下でのベビーラッシュの始まりです。トキと人との本当の共生の始まりではないでしょうか。トキたちは安心して餌を採り、人はトキに遠慮することなく農作業ができるような環境づくりにも力を入れて取り組んでいきたいです。



**佐渡トキの田んぼを守る会
会長 齋藤 真一郎さん**

テレビのテロップでひな誕生を知り、翌日放送された映像で実感しました。自然放鳥から3年間、待ち遠しかったので、頑張ってくれたなと思いました。

1999年、中国からトキのペアが来た際、当時の本間新穂村長が、将来必ずトキを野生復帰させるから、その時に備えて、トキの餌が増えるよう生きものがたくさん生息する田んぼにしたいと呼びかけました。生きものや環境に関心が薄かった時代、私はトキの将来のこと、全国で少しずつ出てきた多様な生きものとの共生を目指す新たな農業技術に興味を持ち、取り組むことを決めました。本当の意味での生物多様性農業を今後も地道に続けたいと思います。



**(社)佐渡生きもの語り研究所
理事長 仲川 純子さん**

「感想を聞かせてください。」新聞社からの電話取材で、ひな誕生を知りました。本当にびっくりして、そして、よかったなあという思いが込み上げてきました。また、これまで佐渡のいろいろな方々がトキの保護にいろいろな力を注いできましたので、その願いがようやく叶えられたのだと思い、感激しました。

私たちは、農家の人や子どもたちと一緒に田んぼの生きもの調査をして、田んぼが稲だけでなくさまざまな生物を育てていることを学んでいます。また、市の認証米の普及活動にも取り組んでいます。ひなが生まれ育っている佐渡の豊かな環境を全国に伝え、今後も更に活動していきたいです。



**トキモニタリングチーム
モニター 土屋 正起さん**

新聞記者から「ひながうまれたそうですが、コメントをください。」と電話がきて、初めて知りました。これからまた忙しくなるな、心配ごとが増えるなというのが最初の感想です。

モニタリングチームは、皆目的は違いますが、トキの行動を観察し、連絡を取り合って情報共有しています。山へ行ってトキがねぐらからどこへ飛び、どんな行動を取るのかを調べるのが役目です。

自然界で育っているひなには、観察記録がないので、今後の過程が何もわかりません。巣立ったひながどんな行動をとるのか、保護のためにどうしたらいいのかを見つけて、トキに教えてもらい、感じとっていききたいと思います。



トキ野生復帰に関連した取組

豊かな自然環境を象徴するトキを野生に復帰させるため、市ではさまざまな取り組みを進めています。

▽トキふれあい施設（平成25年4月オープン予定）

自然に近い状態の中でトキの生態を間近で見ることが出来る日本唯一の施設。

6月末に施設が完成し、トキ近似種のクロトキ等の飼育を経て、25年4月からトキの飼育を開始する予定です。

▽放鳥スケジュール

第6回放鳥は、6月上旬に、現在訓練中のオス10羽、メス3羽を予定しています。

▽トキガイド

市から認定された地元のガイドが、トキ関連施設等を案内します。

申込み・お問い合わせは、トキ交流会館（☎24-6040）または佐渡観光協会（☎27-5000）。各コースにより料金設定されています。

（例）基本B：トキの森公園く野生復帰ステーションく1次放鳥地くトキ交流会館くトキの森公園約2時間コース2500円。

トキ森A：トキの森公園約30分コース1500円。

▽世界農業遺産に認定

世界農業遺産とは、FAO（国連食糧農業機関）が、食糧生産だけでなく、生物の多様性や農村文化、豊かな風景などを生み出し、保全する仕組み

を、後世につなげるべきものとして認定するものです。人と自然の共生を目指す、トキを育む生物多様性保全型農業を推奨する佐渡市は、平成23年6月に石川県能登地域とともに日本初となる世界農業遺産に認定されました。

▽朱鷺と暮らす郷づくり認証制度

トキの初放鳥にあわせて

平成20年から

生産がスタートされた「朱鷺と暮らす郷米」。

認証制度では、農家が生きものとの共生を目指し、「生きものを育む農法」や「生きもの調査」を実施するものです。

そして、佐渡市が生産現場を訪れて確認しています。

▽トキピオトップ整備

放鳥トキの餌場確保に向けて、ピオトップ（さまざまな生きものが生息できる環境）を整備し、餌となる生きものを増やす取り組みを行っています。

初放鳥前年の平成19年より開始され、23年度までに31ヘクタールが整備されました。

▽佐渡Kids生きもの調査隊

市内小学校4く6年生で結成され、現在48名の隊員で活動しています。

年度	面積	農家数
平成20年度	426ha	256戸
平成21年度	862ha	510戸
平成22年度	1,188ha	651戸
平成23年度	1,307ha	685戸

「朱鷺と暮らす郷づくり」
認証制度 取組実績



地元の農家の皆さんが先生となり、子どもたちがトキのえさとなる田んぼの小さな生きものを調べるなど、食と環境のつながりから生物多様性を学んでいます。

佐渡Kids生きもの調査隊では、隊員を募集しています。詳しくは、市役所農林水産課生物多様性推進室（☎63-3761）までお問い合わせください。

▽佐渡市トキ環境整備基金

トキの野生復帰の取組み支援として、多くのご寄付をいただいています。ご芳志は、トキの生息環境整備のために活用しています。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室

トキ政策係（トキ交流会館内）
☎24-6040



☆お知らせ☆

4月26日（木）、ひなの誕生を記念して、トキの森公園資料展示館に「祝 トキひな誕生コーナー」を設置しました！

場 所 トキの森公園資料展示館（佐渡市新穂長畝383-2）
☎22-4123

開館時間 午前8時30分～午後5時（午後4時30分 入館締め切り）

内 容
○36年ぶり自然界で誕生したトキひな写真
○報道発表新聞記事
○小学生のトキメッセージ・トキの絵
○トキひな動画
○トキ環境親善大使 加藤登紀子さんお祝いメッセージ



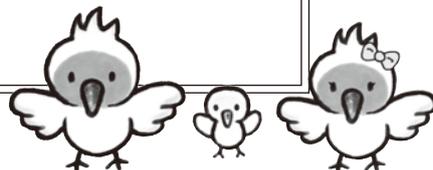
【5月19日現在】 トキの個体数 261羽

○飼育 206羽

- ・佐渡トキ保護センター 122羽
- ・野生復帰ステーション 40羽
- ・多摩動物園（東京都日野市） 14羽
- ・いしかわ動物園（石川県能美市） 13羽
- ・出雲市トキ分散飼育センター（島根県） 7羽
- ・長岡市トキ分散飼育センター 10羽

○自然下 55羽

- ・佐渡市内 52羽（うちひな 8羽）
- ※現在ペア数 7組
- ・佐渡市外 1羽
- ・行方不明（半年以上未確認） 2羽



トキ年表 ～ひな誕生までの歩み～

1981年（昭和56年）	1月	佐渡に残っていた野生のトキ5羽を全て捕獲し、新潟県トキ保護センターで飼育（「キン」を含め全部で6羽）、以降ペアリングを試みるが成功せず
	5月	絶滅したと思われていた中国で、7羽のトキが発見される
1985年（昭和60年）	10月	中国から「ホアホア」を借り受け「キン」とペアリング
1989年（平成元年）		「キン」が生殖羽不完全着色。「ホアホア」中国返還 中国で初めてトキの人工ふ化に成功
1990年（平成2年）	3月	「ミドリ」を北京動物園に貸し出し、中国の「ヤオヤオ」とペアリング開始 （繁殖に成功せず平成4年9月帰国）
1993年（平成5年）	11月	新潟県トキ保護センターが新穂村長畝に移転。佐渡トキ保護センターと改称
1994年（平成6年）	4月	トキの森公園がオープンして、トキの一般公開が始まる
	9月	中国から「ロンロン」「フォンフォン」借り受け、飼育繁殖を開始
	12月	「ロンロン」死亡
1995年（平成7年）	4月	「フォンフォン」「ミドリ」のペアリング開始。5個産卵するがふ化せず 「ミドリ」死亡 「フォンフォン」返還
1999年（平成11年）	1月30日	「友友（ユウユウ）」「洋洋（ヤンヤン）」のペアが到着
	5月21日	国内で初めて人工繁殖に成功 「優優（ユウユウ）」誕生
2000年（平成12年）	5月	「友友」「洋洋」ペアから「新新（シンシン）」「愛愛（アイアイ）」誕生
	10月14日	「優優」のお嫁さんとして中国から「美美（メイメイ）」到着
2003年（平成15年）	10月10日	日本産最後のトキ「キン」死亡 36歳
2007年（平成19年）	4月17日	野生復帰ステーション、環境省佐渡自然保護官事務所開設
	12月	多摩動物公園へトキ4羽を移送
2008年（平成20年）	9月25日	10羽のトキが自然へ試験放鳥される
2009年（平成21年）	9月29日	第2回放鳥（19羽）がソフトリリース形式により行われる
2010年（平成22年）	1月	いしかわ動物園へトキ4羽を移送
	3月	野生復帰ステーション順化ケージで「テン」の侵入により9羽のトキが死亡 放鳥トキの営巣確認。自然下では1979年以来31年ぶり 産卵確認
	4月	自然界で34年ぶりのひな誕生が期待されていたが、親鳥が卵を捨てたり、カラス被害にあう
	5月	
	11月1日	第3回放鳥（13羽）
2011年（平成23年）	1月	出雲市トキ分散飼育センターへトキ4羽を移送
	3月10日	第4回放鳥（18羽） 放鳥トキの営巣・産卵が確認されたが、ふ化には至らず
	9月27日	第5回放鳥（18羽）
	10月	長岡市トキ分散飼育センターへトキ4羽を移送
2012年（平成24年）	4月22日	自然界で36年ぶりのひな誕生が確認される



佐渡トキマラソン大会2012

ゲストランナー 谷口浩美さんのランニング教室

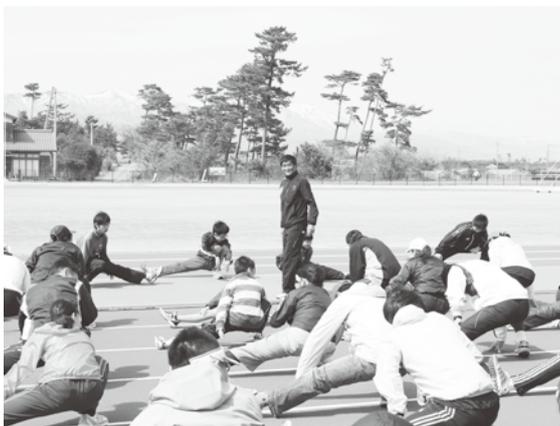
マラソン大会前日の4月21日、谷口浩美さんのランニング教室が佐渡市陸上競技場で開かれました。

老若男女問わず約100名が参加しました。谷口さんは、翌日大会出場を控えた参加者に疲れが残らないように考慮しながら、走る上で大切なことを、わかりやすく話していました。

最初の柔軟体操では、「長距離を走る時、早く身体が苦しくならないように、全身の筋肉をしっかりと伸ばしましょう。軽いストレッチではいけません。また、伸びていないということは、その細かい筋肉が使われていないということです。その分早く疲れてしまいます。まずは今の身体の硬さ、限界を知ることが大事です。」と運動の基本となる柔軟の大切さを教えていました。

次に走行の練習では、全員で軽くグラウンドを1周した後、コースの区切りとなる白線の上に立たせ、まっすぐ歩くことから始めました。この練習では、「早く走りたいなら、いかにまっすぐ走れるかを学ぶこと。白線を活用

して、バランス良くまっすぐ進みましよう。」と指導しました。徐々に速度をあげると、参加者から「難しい」などの声が続くとともに聞こえてきました。「筋肉の連動性を練習で確認してください。また、腰を使って少しひねることで、足が1センチでも前に出すことができ、歩幅が大きくなります。だから柔軟で身体を柔らかくすることが大切なんです。」と走ることと柔軟との結びつきにも触れていました。



4月22日、両津港近くのおんでこドームをメイン会場に「佐渡トキマラソン大会2012」が開催され、全国から2238人のランナーが出場しました。選手はフルマラソン、ハーフマラソン、10キロ、5キロ、3キロの各種目に分かれ、ちょうど見頃となった桜など佐渡の美しい自然の中を走り抜けました。

また、大会前日と合わせて約600人のボランティアが、コース誘導や、エイドステーションで水やバナナ、おにぎりなどを準備し、大会を支えていました。

少し肌寒い天候の中、力を出し切った選手の皆さん、おつかれさまでした。そして、沿道からあたたかい声援を送っていた市民の皆さん、大会をサポートしたボランティアの皆さん、ありがとうございました。



大会の結果は、「佐渡トキマラソン大会2012」ホームページでご覧いただけます。
<http://www.e-sadonet.tv/~sado-marathon/>



参加者の声

【真野中3年 佐藤航さん】

前日行われた谷口浩美さんのランニング教室にも参加した佐藤さん。「調整不足でタイムはいまいちだったけど、谷口さんの教室で学んだことをウォーミングアップに活かせました。今後マラソンを続けていきたいし、来年もきつと出ます。」と次への意気込みを語っていました。

【金井小5年 小田樹里さん】

小学5年女子の部に出場し、1位を獲得した小田さん。「つらかったけど、来年もまた出たい。」と疲れを感じさせない笑顔を見せてくれました。

【上越市 樋口航さん】

フルマラソンの部、総合1位の樋口さん。「風が強かったです。行きは追い風でよかったが、帰りは向かい風となりつらかった。でも桜がきれいに咲いていたので、疲れも少し飛んだ」と振り返っていました。樋口さんは、前回のマラソン大会やトライアスロンにも出場し、また全国のマラソン大会へも挑戦しています。佐渡レースの魅力について伺うと、「沿道の応援が多い。今回もそうだったけど、寒い中、年配の方も外に出て応援してくれてありがたかった。」と語ってくれました。

お詫び

このたびは、3キロ中学生女子、10キロコースご参加の皆さまには、大変ご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。発生状況と原因、参加者への対応については、大会ホームページでご説明させていただきます。



2012スポニチ佐渡ロングライド210

5月20日、河原田小学校グラウンドをメイン会場に、佐渡トキマラソン大会同様、佐渡を代表するスポーツ大会のひとつ「2012スポニチ佐渡ロングライド210」が開催されました。日本最大規模の本大会は、今年で7回目をむかえ、島内外から3,032人が参加し、2,833人が完走しました。

参加者の皆さん、おつかれさまでした。そして、大会を支えてくださった約1,000人のボランティアの皆さん、沿道から声援を送ってくださった皆さん、ありがとうございました。

毎年開催事業の継続を欠けて、無事に完了しました。
KEIRIN 00



平成23年度「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」(佐渡市寄附講座) 研究活動とその成果について

新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター

はじめに

新潟大学は、佐渡市の寄附を受け、平成23年5月1日に「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」を新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター(トキ交流会館内)に開設しました。

本講座では、平成26年3月までの3年をかけて、農林水産業を軸とした自然再生活動と地域経済が好循環する「環境経済システムの構築」に向けた研究教育に取り組みます。ここでは、学内外の教員や研究員、さらには佐渡の関係者の協力を得て実施した本講座における初年度(平成23年度)の活動とその成果についてご報告します。

ご報告にあたり、ご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

■初年度の研究成果
本講座は、表に示した4つのサブテーマに取り組んでいます。

各サブテーマの研究の目標と23年度の成果について、その概略を以下に示しました。成果については、今後、さまざまな形で皆さまに還元する機会を設けていきます。

サブテーマ	担当者
1. 生物多様性に配慮した環境保全型農法の検討とその普及啓発に関する調査研究	西川 潮 (新潟大学超域学術院) *1
	小林 頼太 (新潟大学超域学術院) *2
	柘植 隆宏 (甲南大学経済学部)
2. 農林水産物の品質の安定性の評価	大坪 研一 (新潟大学農学部)
3. 環境保全型農業に基づく農林水産物の市場形成と拡大に関する調査研究	桑原 考史 (新潟大学超域学術院) *2
	氏家 清和 (筑波大学生命環境科学研究科)
4. 農地の順応的管理システムの検証	横溝 裕行 (国立環境研究所・環境リスク研究センター)

*1: チームリーダー、*2: 佐渡常駐(寄附講座教員)

① 生物多様性に配慮した環境保全型農法の検討とその普及啓発に関する調査研究

(1) 生物多様性に配慮した環境保全型稲作の取り組み効果の検証

この研究では、農薬・化学肥料の低減、ふゆみずたんぼ、江の創出といった「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度にもとづく環境保全型農業の取り組みが、水辺の生物多様性に及ぼす影響を評価します。また、実験田を活用して、水辺の生物多様性を向上させる栽培管理方法の検討を進めます。これらをもとに、水辺の生物多様性指標や、生物多様性の再生に有効な環境保全型農業、さらには新たな認証基準の提言を試みます。

これまで、佐渡全島の水田で生きもの調査を行ない、また国中平野において、農薬低減とふゆみずたんぼの取り組み効果を検証しました。その結果、江が設置された水田と無農薬栽培田で生物多様性が高い傾向が認められました。

(2) 農業者の環境保全型農業に対する取り組み意識の解明

佐渡島の農業者を対象とした全島規模のアンケート調査を通じて、農業者が取り組みやすい環境保全型農業の推進体制を検討します。アンケート調査の結果をもとに統計モデルを構築し、認証農家・未認証農家の属性や意識の差、各栽培方法・農法を実施することの難しさ、を定量的に評価します。



23年度は、JA(佐渡、羽茂)に米を出荷している全5010戸の農家にアンケートを配布したところ、2231戸(認証農家589戸、未認証農家1642戸)から回答がありました。認証農家の特徴として、次のことが明らかになりました。

- ① 専業農家が多いこと
- ② 直販実施農家が多いこと
- ③ 知人に認証農家が多いこと
- ④ JA・佐渡市・消費者からの期待を強く感じていること
- ⑤ 認証制度の効果を認識していること

2 農林水産物の品質の安定性の評価

・佐渡産米の品質特性

新潟県は全国で最も品質の良い米が産出される地区のひとつです。平成22年の日本穀物協会の米の食味ランキングでは、佐渡地区は、魚沼地区、岩船地区とともに特Aランクを得ています。佐渡地区の特Aランクの獲得は6年連続であることから、佐渡米の品質は高いことが示されています。この研究では、佐渡市内の8地区で生産された米を試料として、物理化学特性や、米飯物性、糊化粘度特性等を評価します。また、水稲の栽培管理方法と米の食味の関係についても研究を進めていきます。

23年度は、玄米粗タンパク質含量、粘り感などいくつかの食味に関する指標について分析を行った結果、若干の地域差が認められました。

3 環境保全型農業に基づき農林水産物の市場形成と拡大に関する調査研究

(1) 制度・経営分析

この研究では、環境保全型農業に取り組む経営体・地域の実態や支援制度を比較分析することにより、環境保全型農業の経営的・制度的成立条件を明らかにします。主に水田稲作を対象とし、佐渡島内における地域間・経営間比較とともに、国内他地域との比較を行います。これらを通じて、環境保全型農業の経営モデル・支援制度モデルを提示します。

23年度は、佐渡島内の農業経営体の現状把握と、既存の制度（朱鷺と暮らす郷づくり認証制度、佐渡版所得補償等）の評価を行ないました。その結果、付加価値による高価格販売が実現できない場合には、助成金単価の引き上げを検討する必要があります。

(2) 消費者行動に基づき認証米販売戦略の検討

米消費者の購買行動の特徴を詳細に分析することで、生物多様性に配慮した米がどのような特徴を持った消費者に購入されるのかを明らかにします。この目的のために、既婚女性を対象としたインターネットアンケート調査を行うとともに、23年以降の米購買履歴データの解析を進めます。

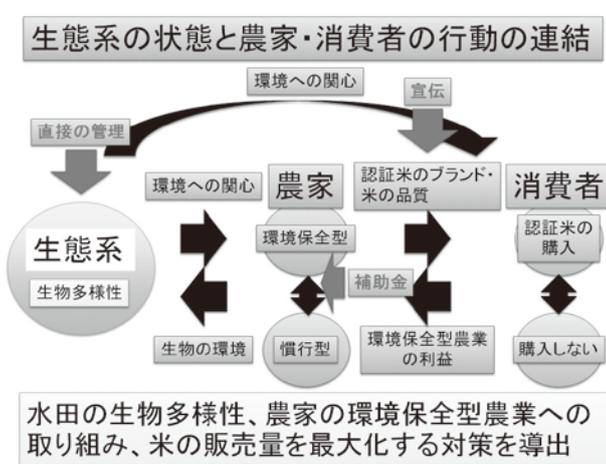
23年度は、米の付加価値、ブランドおよび購入方法が多様化する中で、その特徴や方法により購入形態が異なっていることが明らかになりました。

4 農地の順応的管理システムの検証

・農地の順応的管理のための数理的研究：生態系動態と人間の選択動態の統合モデル

水田の生物多様性や米の品質の動態と、農業者や米の消費者の選択動態について、どのような要因が関係しているのかという知見に基づいて、生態系動態と人間の選択動態を結合した数理モデルを構築します。この数理モデルの解析により、水田の生物多様性、農家の環境保全型農業への取り組み、米

の販売量を最大化する対策（助成制度、認証米の販売戦略など）を導き出します（図参照）。



■おわりに

24年度は、各サブテーマの調査研究をますます充実させるとともに、本講座の狙いである施策提言に向けて、研究成果の統合化を進めます。おりしも36年ぶりの野生下でのトキふ化は、佐渡市において「環境と経済の好循環」を実現する絶好の機会でもあります。幅広い視野を持ちつつ、地域に寄り添い、市民の皆さんの目線で調査研究を行なっていく考えです。新潟大学は「アクション・プラン2012-2013」において自然再生学を目指す

鷺プロジェクトの研究を高度化することを重点的に取り組む事項としていきます。朱鷺プロジェクトを推進するため自然再生学講座をひとつの礎として地域との連携を図りながら、トキの野生復帰およびそれと共生する地域社会づくりを目指し、新たな学際的環境科学として自然再生学を構築してまいります。

今後とも大学の活動にご理解とご協力をいただけますよう、よろしくご願ひ申し上げます。



寄附講座成果報告の様子 (5月14日、市役所)

◆新潟大学 朱鷺・自然再生学
研究センター ☎22-3885

平成23年度行政監査結果

佐渡市監査委員事務局

☎63-3112

佐渡市監査委員は、行政監査の結果を公表しましたので、その概要をお知らせします。

佐渡市監査委員 清水一次
佐渡市監査委員 金子健治

1 監査の実施時期

平成24年1月31日～3月5日

2 監査の対象

現金取扱い事務について

3 指摘事項

(1) 現金出納簿の整備について

現金出納簿で整理されておらず、記録整理に不十分な部署が見えられた。

会計課におかれては、現金出納簿の書式を示し、記録整理を徹底し、出納員の検査を受けるよう指導されたい。

(2) つり銭の交付について

一部につり銭が用意されておらず、慣例として担当者による両替や、当日あるいは前日以前の収入から対応している例がみられた。これは、ややもすれば不明金を生むことになり、ひいては事故につながるおそれがあるので、必要なときにはつり銭の交付を受け、不要になったら直ちに返却するという

システムを強化されたい。

また、必要以上につり銭の交付を受けている例もみられた。地方自治法において歳計現金は、最も確実かつ有利な方法によりこれを保管しなければならぬとされているので、つり銭の交付を受ける際は必要最小限度にとどめるよう、必要額を精査されたい。

(3) 現金の保管について

現金を収納当日金融機関に納付できないで翌日以降に行う場合、一部に施錠可能ではあるが、キャッシュネットに保管しているものが見受けられた。佐渡市財務規則において「堅固な容器」に保管すべきと規定されているので、業務終了後の管理については適切になされるよう指導されたい。

4 結び

現金の収納において、一人で事務が完結することなく、相互牽制けんせいが働くような体制を組織として構築する必要がある。とりわけ、出納員は事務処理の過程を十分把握した上で、効果的なチェックを行うとともに現金取扱いについての責任体制を明確にすることを意識する必要がある。その意味で現金取扱いのマニユアルを整備し、有効な内部チェック体制が築かれることを求める。

農業委員会からのお知らせ

農業者年金現況届は忘れずに提出を！

農業者年金を受給されている方は、年金を受給するために、現況届の提出が必要です。



現況届が届く時期は…

現況届の用紙は5月末日までに、直接受給権者ご本人あてに送付されています。

現況届の提出時期は…

現況届は、6月29日までに、最寄りの各支所（産業振興課）・行政サービスセンターまたは農業委員会に提出してください。

現況届の提出を忘れると…

現況届の提出がないときは、11月の支払いから現況届が提出されるまでの間、年金の支払いが差し止められますので、ご注意ください。

お問い合わせ 佐渡市農業委員会（第2庁舎）☎63-5115



佐渡市環境アドバイザー

(敬称略)

氏名	所属・資格	指導分野
齋藤 真一郎	新潟県認定エコファーマー、 (社)佐渡生きもの語り研究所、 佐渡トキの田んぼを守る会会長	自然環境
坂田 金正	獣医学博士	
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校講師	
佐々木 邦基	(社)佐渡生きもの語り研究所	
花田 祐司	獣医師	
関島 恒夫	新潟大学大学院自然科学研究科准教授	
関谷 國男	新潟大学教育支援員	
本間 航介	新潟大学農学部准教授	
箕口 秀夫	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 副センター長/教授	
金子 洋平	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター助手	
桑原 孝史	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 特任准教授	
井上 信夫	環境省希少野生動植物種保存推進員	
十文字 修	環境カウンセラー	
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校校長	生活環境
福原 晴夫	元新潟大学教育学部教授	
安藤 卓也	佐渡島木質バイオマスフォーラム会長、 佐渡森林・林業教育指導員	環境教育
井上 由香	NPO法人しまみらい振興機構代表理事	
計良 武彦	NPO法人トキどき応援団理事長	トキ
高野 毅	生楯の自然を守る会会長	
仲川 純子	(社)佐渡生きもの語り研究所理事長	自然観察
石澤 進	元新潟大学理学部教授	
永田 尚志	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター准教授	
西川 潮	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター准教授	
大脇 淳	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 特任准教授	
小林 頼太	新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 特任助教	
神蔵 勝明	元佐渡高等学校教諭、日本地質学会員	
近藤 敬一	国指定小佐渡東部鳥獣保護区管理員	
土屋 正起	国指定小佐渡東部鳥獣保護区管理員	
中川 清太郎	日本自然保護協会自然観察指導員	
北條 睦夫	佐渡市文化財保護審議会委員	
本間 了	水中カメラマン	

派遣の手続き

- 1 主催者は講演内容(日程、テーマ、希望講師)が決まりましたら、市役所環境対策課または各支所・行政サービスセンターに備えてある「環境アドバイザー派遣申請書」に必要事項を記入して、実施1か月前までに提出してください。
- 2 市で派遣申請書を審査し、派遣の可否を主催者に通知します。

お問い合わせ

市役所環境対策課

環境企画係

☎63-3113

環境アドバイザーを派遣します

市では、身近な環境問題について理解を深めてもらうため、市が委嘱した環境アドバイザーを市民団体や企業が主催する環境講演会、研修等に講師として派遣します。派遣費用は市が負担しますので、積極的にご利用ください。

環境アドバイザー
派遣制度をご利用
ください



市民環境大学の受講生を募集します！

◆市役所環境対策課環境企画係 ☎63-3113

市では、市民の環境についての理解が深まり、環境保全活動が促進されることを目的として、佐渡市市民環境大学講座(第8期)を開設します。今年度は、新潟大学で実施している「朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット(JST事業)」と連携しての講座となります。皆様の受講をお待ちしております。

開設講座 基礎講座、トキガイド養成講座

期間 7月～11月

時間 午後7時～9時を基本とする

講座回数 各講座7回

会場 トキのむら元気館、トキ交流会館ほか

講師 新潟大学教授ほか

受講料 2,000円(初回受講時にお願ひします)

申込み 受講生募集パンフレット添付の申込書を環境対策課、または各支所・行政サービスセンターへお送りください。

申込締切 7月2日(月)

※ 受講生募集パンフレットは、環境対策課、各支所・行政サービスセンターにあります。

CoolBiz

クールビズ

市役所では、地球温暖化対策の取組みとして、冷房温度の28℃設定を徹底しています。これに伴い、6月から9月を軽装の励行期間としてクールビズに取り組んでいますので、ご理解をお願いします。皆様のご家庭や職場でも「冷房温度の28℃設定」や「夏季の軽装」などの取組みに、ご協力をお願いします。(市役所環境対策課)



参加者募集中!!

独身男女限定 「Let's BBQ♥パーティー」

～夏の味覚満載!! 出逢いを楽しみたい人大集合☆
まずはお友達からの楽しいパーティーです～

真野湾を一望できるロケーションは最高! 開放的な雰囲気での飲食・楽しいゲームなど内容は盛りだくさん。日ごろの疲れを吹き飛ばし、屋外でのバーベキューで楽しいひと時を・・・そして新たな出逢いを・・・皆さんの参加をお待ちしています!!

日 時 7月8日(日) 午後3時～午後6時
男性受付: 午後2時15分～
男性のみ(午後2時30分よりセミナーを行います。)
女性受付: 午後2時30分～

場 所 ふれあいハウス「潮津の里」(佐渡市背合38番地)

参 加 費 男性: 5,000円
女性: 1,000円(当日会場でお支払ください)

定 員 男性: 15人(おおむね25歳～45歳位)
女性: 15人(フリー)

お申し込み 佐渡市地域振興課地域振興係
☎63-4152 Fax63-5125
①氏名②住所③電話番号④年齢をお願いします。
*男性参加者には、別途プロフィールカードの提出についてご協力をお願いします。
*当日はアルコールの提供があります。
*雨天の場合は、室内にてbuffスタイルに変更します。

申し込み期限 男性: 6月25日(月)
女性: 7月2日(月)
応募多数の場合は抽選となります。

主 催 佐渡市
企画運営 (株)アクセス・ネットワーク



男性対象事前セミナー 「幸せのヒント・短期集中アドバイス」

日 時 6月28日(木)
午後7時～午後9時

場 所 市役所会議室棟1階
第2会議室

講 師 株式会社アクセス・ネットワーク アドバイザー

内 容 イベントタイムスケジュール
*本番でご自身の個性と魅力を発揮するために
*当日服装・第一印象についての個別アドバイス
*参加者間のコミュニケーションなど

“今だからこそボーイスカウト” 団員募集中!

ボーイスカウトでは、元気でゆかいな仲間たちとゲームをしたり、ハイキングをしたり、キャンプをしたりして楽しく過ごしながら色々ためになる知識や技能を身につけます。

通常の集会は日曜の夜、両津福浦のボーイスカウト会館でおこなっています。

君も仲間になりませんか。

団員は随時募集しています。入団希望の方や関心のある方は、応募資料を差し上げますので、ご連絡ください。

募集人員(各学年4名)

- ビーバースカウト隊 (小学校1年生から2年生までの男児)
- カブスカウト隊 (小学校3年生から5年生までの男児)
- ボーイスカウト隊 (小学校6年生から中学生までの男児)

お問い合わせ 伊里和高(両津春日4丁目) 携帯: 080-2260-0646



「乗用車往復航送運賃・ジェットfoil運賃」特別割引実施中!!

市役所交通政策課 ☎63-3184

7月8日(日)まで、土日祝日に出発する乗用車往復航送運賃とジェットfoil運賃の特別割引を実施しています。「島発」「本土発」のどちらでもご利用いただけます。なお、小木直江津航路の割引は、新潟県・上越市・佐渡市が運賃の一部を支援しています。いずれの割引も事前の予約が必要です。(空きがあれば当日でも割引が適用されます。)

お問い合わせ・ご予約 佐渡汽船㈱両津総合案内所 ☎27-5614 (午前8時～午後6時)



乗用車往復運賃特別割引 《土日祝日出発限定》

期間 7月8日(日)まで

運賃 乗用車1台往復 ※燃料油価格変動調整金を含む

○両津～新潟航路 19,800円

(島発限定3m以上4m未満 15,800円)

○小木～直江津航路 15,800円

○回遊利用 17,800円

※運転者、同乗者の旅客運賃が別途必要

主な適用条件

- ①往路乗船日が割引期間内の土日祝日で、乗用車が往復または回遊する場合(復路は往路乗船日を含め10日以内)に適用します。
- ②割引対象は車両の長さが6m未満のみ(バス・貨物車・バイクは対象外)
- ③乗船券購入後、乗船日の変更により適用条件に該当しなくなった場合は、普通運賃との差額をいただきます。
- ④往路券使用後の復路券の払い戻しはできません。

ジェットfoil運賃特別割引 《土日祝日出発限定》

期間 7月8日(日)まで

運賃 大人片道3,980円 往復7,960円

小児片道1,990円 往復3,980円

※燃料油価格変動調整金を含む

主な適用条件

- ①片道ジェットfoil利用の場合は、搭乗日が割引期間内の土日祝日の場合に片道運賃を適用します。
- ②往復ジェットfoil利用の場合は、往路搭乗日が割引期間内の土日祝日で、ジェットfoil(復路は往路搭乗日を含め5日以内)を利用する場合に往復運賃を適用します。
- ③搭乗券購入後、搭乗日の変更により適用条件に該当しなくなった場合は、該当運賃との差額をいただきます。

「佐渡市一斉清掃」参加者募集!

「美しい島づくり」の一環として今年も実施します。

皆さんの参加をお待ちしています。

今年は例年どおり、6月末から7月第1週にかけて実施します。夏レジャーシーズンの前に、皆さんで佐渡をきれいにしましょう。

参加いただける場合は、各地区の市政事務嘱託員さんへご連絡下さい。

期間 6月30日(土)、7月1日(日)

*予備日7月7日(土)、8日(日)

場所 集落内道路や海岸(湖岸)等

お問い合わせ 市役所環境対策課 ☎63-3113または各支所・行政サービスセンター市民生活係



ご協力ください!

ウエスの材料を集めています

障害福祉サービス事業所「あんずの家」では、利用者の皆さんの作業の一環として、ウエスづくりを行っています。その材料となる古着やタオル、浴衣、シーツ等を集めています。

ご家庭で不用の古着やタオルなどをご寄付ください。ご連絡いただければ取りにうかがいます。

あんずの家 両津湊343番地46

☎23-3303 (加藤)

地域の皆様・企業を全力でサポートします!
お気軽にご相談ください。



佐渡あおば法律事務所

弁護士 岩田 宏

佐渡市千種丙209-12

TEL(0259) 67-7131

受付時間 9:00~17:00 定休日 土・日・祝日

有
料
広
告



介護サービスの充実に向けて 地域密着型介護サービス施設等オープン

市では、本格的な長寿社会を迎え、高齢者の保健福祉に対するニーズが増加している中、介護保険制度の円滑な運営に努めるとともに、高齢者施策を総合的に推進するための計画である「佐渡市介護保険事業計画」に基づき、介護基盤の整備に取り組んでいます。

このたび、地域に密着した小規模な特別養護老人ホーム3施設と小規模多機能型居宅介護1施設、既存の特別養護老人ホームの増床が、今年度順次開設いたしますので、お知らせします。

①小規模多機能型居宅介護 「ささえ愛あいの山」(登録定員25名、宿泊9名、通い15名) 【金井地区】

4月26日、竣工式が行われ、5月1日に開設しました。

市では初めての施設で、日中はつど



いの場として事業所に通い、自宅での介護が必要なときは日中でも夜間でもホームヘルパーが自宅を訪問し、介護を受けられます。また、事業所に宿泊しての介護サービスもあります。

所在地 佐渡市大和1213番地
連絡先 ☎63-6655
運営主体 ささえあいコミュニティ生
活協同組合新潟

②特別養護老人ホーム 新穂愛宕の園 式号館(定員29名全室ユニット型個室) 【新穂地区】

4月27日に竣工式が行われ、5月1日に開設しました。

入居者の方々が、在宅での状況と同様に精神的に落ち着いた日常生活を送るための「生きがいのある暮らし」の支援を行う「ユニット型特別養護老人ホーム」です。

所在地 佐渡市新穂瓜生屋513番地1

連絡先 ☎24-6133
運営主体 社会福祉法人 愛宕福祉会



③特別養護老人ホーム スマイル赤泊 (既存の定員50名全室ユニット型個室に40床を増床) 【赤泊地区】

現在、7月1日の開設に向け、準備を進めています。

佐渡南部の山と海に囲まれた自然豊かな地で、地域福祉の拠点として、活躍を期待されている施設です。

居心地の良い環境づくりと家庭的な心の



つながりを大切にしていきます。

所在地 佐渡市徳和6207番地2
連絡先 ☎81-5750
運営主体 社会福祉法人 佐渡前浜福祉会

④特別養護老人ホーム 金泉ふれあいの杜(定員27名ユニット型個室と多床室の複合型施設) 【相川地区】

今年の10月開設予定で建設中です。旧金泉中学校グラウンドに建設され、周囲は学校の面影を残し、昔を懐かしく思い出させるとともに、全室から日本海が眺望でき、特に春から秋にかけて美しい夕日が展望できる高台に建設されています。

所在地 佐渡市北狄1500番地2
連絡先 ☎75-2181(開設準備室)

運営主体 社会福祉法人 佐渡ふれあい福祉会

⑤特別養護老人ホーム 真野の里2号館(仮称)(定員29名全室ユニット型個室と短期入所施設 定員10名全室個室) 【佐和田地区】

今年の10月開設予定で建設中です。

この施設は、交通の便が良い佐渡市八幡地内に建設され、入所者に寄り添った介護ができるよう、入所者やその家族、地域関係者などの意見をいただきながら運営を行います。

所在地 佐渡市八幡1881番地1
連絡先 ☎55-4015(真野の里)
運営主体 社会福祉法人 佐渡寿福祉会